

- の効果：ランダム化比較試験、第4回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会、福井県、平成16年8月6-7日
- 6) 佐野喜子、坂根直樹：糖尿病教育におけるバーチャル・バイキングシステムの有効性について、第4回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会、福井県、平成16年8月6-7日
 - 7) 坂根直樹、津下一代、佐藤寿一、佐藤祐造、吉田俊秀、臼井健、葛谷英嗣：生活習慣介入による2型糖尿病の予防、第25回日本肥満学会、大阪、平成16年9月29日
 - 8) 松井浩、坂根直樹、蛭原恒子：警察官に対する肥満対策プログラム、第25回日本肥満学会、大阪、平成16年9月29日
 - 9) 坂根直樹、津下一代、佐藤寿一、佐藤祐造、佐藤茂秋、富永真琴：生活習慣介入による2型糖尿病の予防、第63回日本公衆衛生学会総会、島根県松江市、平成16年10月27日
 - 10) 松井浩、坂根直樹、蛭原恒子：警察官に対する肥満対策プログラムの効果、第63回日本公衆衛生学会総会、島根県松江市、平成16年10月27日
 - 11) 小路浩子、坂根直樹：楽しくてためになる健康教室：「コレステロールが下がる教室」の実践、第63回日本公衆衛生学会総会、島根県松江市、平成16年10月27日
 - 12) 前真司、田嶋佐和子、中村伸一、佐野喜子、松井浩、坂根直樹：国保ヘルスアップモデル事業：効果の出る健康支援プログラムを目指して、第63回日本公衆衛生学会総会、島根県松江市、平成16年10月27日
 - 13) 二木佳子、坂根直樹、細川公代、篠田玲子、岸本明視：行動科学を用いた楽しくてためになる禁煙教育の実践：重要性と自信の評価、第63回日本公衆衛生学会総会、島根県松江市、平成16年10月27日
 - 14) Sakane N: Japan Diabetes Prevention Program: interim report on the lifestyle intervention in IGT subjects. 1st International Congress on "PREDIABETES" AND THE METSBOLIC SYNDROME. Germany. 2005.4.13-16.
 - 15) 坂根直樹、佐藤寿一、津下一代、辻井悟、臼井健、富永真琴、佐藤祐造、河津捷二、佐藤茂秋、清原裕、小谷和彦、葛谷英嗣：生活習慣介入による2型糖尿病の予防：日本糖尿病予防プログラム（JDPP）、第48回日本糖尿病学会年次学術集会、神戸、平成17年5月13日
 - 16) 松井浩、坂根直樹、佐野喜子：警察官に対する糖尿病予防対策プログラムの効果、第48回日本糖尿病学会年次学術集会、神戸、平成17年5月13日
 - 17) 山崎法子、佐野喜子、坂根直樹：非対面式モバイルダイエットプログラムの開発、第5回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会、東京、平成16年8月6日
 - 18) 同道正行、佐野喜子、松井浩、坂根直樹：国保ヘルスアップモデル事業 ITを用いた健康支援プログラムの効果：ランダム化比較試験、第5回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会、東京、平成16年8月6日
 - 19) 藤本明視、坂根直樹、二木佳子、細川公代、吉田由紀：家庭高血圧者に対する血圧伝送と電子メールによる健康管理システムの効果、家庭高血圧者に対する血圧伝送と電子メールによる健康管理システムの効果、第64回日本公衆衛生学会総会、札幌、平成17年9月15日
 - 20) 松井浩、坂根直樹、佐野喜子：警察官に対する糖尿病予防対策プログラムの効果、第64回日本公衆衛生学会総会、札幌、平成17年9月15日
 - 21) 坂根直樹、津下一代、佐藤寿一、佐藤祐造、佐藤茂秋、富永真琴：生活習慣介入による2型糖尿病の予防：日本糖尿病予防プログラム（JDPP）、第64回日本公衆衛生学会総会、札幌、平成17年9月16日
 - 22) 松岡幸代、佐野喜子、同道正行、坂根直樹、

- 松井浩：楽しくてためになる減量プログラムの効果：ランダム化比較試験、第 26 回日本肥満学会、札幌、平成 17 年 10 月 13 日
- 23) 佐野喜子、坂根直樹：非対面式モバイルダイエットプログラムの開発、第 26 回日本肥満学会、札幌、平成 17 年 10 月 13 日
- 24) 坂根直樹：地域や職域における楽しい肥満教室、第 26 回日本肥満学会、札幌、平成 17 年 10 月 14 日
- 25) 坂根直樹：3 日坊主のあなたにもできるゆっくり確実にダイエット、第 26 回日本肥満学会、札幌、平成 17 年 10 月 14 日
- 26) 仁谷めぐみ、正木さやか、小林美保、佐藤三枝子、山本靖子、佐野喜子、高木洋子、坂根直樹、山田和範：1 型糖尿病外来を開設して、第 42 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、平成 17 年 11 月 5 日
- 27) 高木洋子、佐野喜子、仁谷めぐみ、正木さやか、小林美保、山本靖子、藤尾信仁、坂根直樹、山田和範：1 型糖尿病患者の栄養摂取量と HbA1c との関連、第 42 回日本糖尿病学会近畿地方会、大阪、平成 17 年 11 月 5 日
- 【分担研究者：内藤義彦】
- 1) Yoshihiko Naito, Hideaki Tukuma, Akira Oshima, Minoru Iida : Physical activity and risk of cancer in a prospective cohort study(Japan), ACSM Annual Meeting(Indianapolis), 200
- 2) 内藤義彦、原田亜紀子、井上茂、北畠義典、荒尾孝、岡村智教、田中太一郎、上島弘嗣、中川秀昭、三浦克之、柳田昌彦、中山健夫、内藤真理子、木下藤寿、藤枝賢晴：複数の勤労者集団から無作為抽出した対象における質問票より把握される身体活動量と歩数との関連に関する研究、日本体力医学会大会(さいたま)、2004.
- 3) 井上茂、小田切優子、川久保清、内藤義彦、大谷由美子、下光輝一：生活習慣改善指導者における「指導行動のステージ」評価に関する検討、第 63 回日本公衆衛生学会総会(松江)、2004.
- 4) 秦野昌美、内藤義彦、永野明美、伯井朋子、泉本裕子、黒川通典、北村明彦、佐藤眞一：生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価～第 3 報～、第 51 回日本栄養改善学会(金沢)、2004.
- 5) 永野明美、内藤義彦、秦野昌美、伯井朋子、泉本裕子、黒川通典、北村明彦、佐藤眞一：生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価～第 4 報～、第 51 回日本栄養改善学会(金沢)、2004.
- 6) Yoshihiko Naito, Akiko Harada, Shigeru, Inoue, Yoshinori Kitabatake, Takashi Arao, Hideaki Nakagawa, Hirotsugu Ueshima, External validity of a questionnaire for assessment of physical activity in multi-centered arteriosclerosis longitudinal study, 52nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine (Nashville), 2005.
- 7) Yoshihiko Naito, Development of a questionnaire to assess physical activity in the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study, the 8th Asian Federation of Sports Medicine Congress (Tokyo), 2005.
- 8) 西尾久子、吉井ひろみ、木村由美子、森國悦、佐藤拓代、宮崎準子、内藤義彦、糖尿病予備軍への水中運動教室－(第 1 報)プログラム効果について－、第 64 回公衆衛生学会総会(札幌)、2005.
- 9) 吉井ひろみ、西尾久子、木村由美子、森國悦、佐藤拓代、宮崎準子、内藤義彦、糖尿病予備軍への水中運動教室－(第 2 報)仲間づくりから地域への広がり－、第 64 回公衆衛生学会総会(札幌)、2005.
- 10) 井上茂、小田切優子、下光輝一、川久保清、内藤義彦、大谷由美子、行動科学を用いた運動指導教材・講習会の効果に関する介入

- 研究：教材開発に関する報告、第 64 回公衆衛生学会総会（札幌）、2005.
- 11) 小田切優子、井上茂、内藤義彦、川久保清、赤松利恵、武田富士美、大谷由美子、下光輝一、行動科学を用いた運動指導教材・講習会の効果に関する介入研究：講習会に関する報告、第 64 回公衆衛生学会総会（札幌）、2005.
 - 12) 松元清美、岡田睦美、宇野充子、永野英子、今野弘規、木山昌彦、北村明彦、岡田武夫、佐藤眞一、内藤義彦、嶋本喬、CT 検査による内臓脂肪面積を推定するための身体計測指標の検討、第 64 回公衆衛生学会総会（札幌）、2005.
 - 13) 黒川通典、西村節子、伯井朋子、秦野昌美、宮崎純子、北村明彦、内藤義彦、佐藤眞一、村井幸子、嶋本喬、健診結果からみた BMI と食事摂取内容、身体活動量との関連、第 64 回公衆衛生学会総会（札幌）、2005.
 - 14) 秦野昌美、宮崎純子、伯井朋子、西村節子、黒川通典、永野明美、内藤義彦、佐藤眞一、生活習慣改善と体脂肪の減少を重視した減量プログラムとその評価～第 5 報～、第 52 回日本栄養改善学会学術総会（徳島市）、2005.
 - 15) 内藤義彦、森国悦、西尾久子、吉井ひろみ、木村由美子、宮崎準子、地域における耐糖能異常を有する者に対する水中運動プログラムの効果（無作為比較対照試験による検討）、第 16 会日本疫学会学術総会（名古屋）、2006.
 - 16) 内藤義彦、日本動脈硬化予防研究基金統合研究用身体活動量質問紙（JALSPAQ）の開発およびベースライン調査結果からみた我が国の身体活動の現状、日本体育測定評価学会第 5 回大会（東京）、2006.
- 【分担研究者：増居志津子】
- 1) 増居志津子、中村正和、森山和郎：新しい禁煙指導者トレーニング方法の開発－e ラーニングによる事前学習の効果、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 2) 馬醫世志子、大野ゆう子、萩本明子、増居志津子、中村正和：指導技術面からみた禁煙指導者トレーニングプログラムの評価、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 3) 大西智美、西本香代子、柴田雅子、柳 尚夫、井戸正利、春木 敏、中村清美、多門隆子、大松正宏、高山佳洋、増居志津子、黒川通典、佐藤眞一、中村正和：大阪府における食育推進プロジェクト第 2 報食育推進プログラムおおさか食育通信の開発、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 4) 中村清美、川端陽子、大西智美、柳 尚夫、井戸正利、春木 敏、多門隆子、大松正宏、高山佳洋、増居志津子、黒川通典、佐藤眞一、中村正和：大阪府における食育推進プロジェクト第 3 報子ども向けプログラムの開発、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 5) 西本香代子、長瀬久美子、柳 尚夫、大西智美、井戸正利、春木 敏、中村清美、多門隆子、大松正宏、高山佳洋、増居志津子、黒川通典、佐藤眞一、中村正和：大阪府における食育推進プロジェクト第 4 報学校及び地域での食育推進と保健所の役割、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 6) 松本典子、鷺田ゆり子、大西智美、井戸正利、梶谷紀子、吉野紀子、柳 尚夫、中村清美、多門隆子、大松正宏、高山佳洋、増居志津子、黒川通典、佐藤眞一、中村正和：大阪府における食育推進プロジェクト第 5 報食環境の整備「食育応援団」、第 63 回日本公衆衛生学会、2004 年 10 月、松江.
 - 7) 堀井裕子、亀井和代、山本雅代、仲下祐美子、増居志津子、永野明美、伯井朋子、秦野昌美、黒川通典、木山昌彦、今野弘規、岡田武夫、北村明彦、佐藤眞一、中村正和、嶋本 喬：健診時の生活習慣改善指導の効

- 果 高コレステロール血症者への個別指導の課題. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
- 8) 中村清美, 多門隆子, 大松正宏, 西本香代子, 大西智美, 柳 尚夫, 山田 都, 春木敏, 増居志津子, 黒川通典, 佐藤眞一, 中村正和: 大阪府における食育推進プロジェクト第 6 報プロジェクトの進捗状況と今後の課題. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 9) 江上ひとみ, 西本香代子, 大西智美, 柴田雅子, 川端陽子, 柳 尚夫, 山田 都, 春木 敏, 中村清美, 多門隆子, 大松正宏, 増居志津子, 黒川通典, 佐藤眞一, 中村正和: 大阪府における食育推進プロジェクト第 7 報「おおさか食育通信」の追加・拡充. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 10) 西本香代子, 大西智美, 柴田雅子, 高井玲子, 柳 尚夫, 山田 都, 春木 敏, 中村清美, 多門隆子, 大松正宏, 増居志津子, 黒川通典, 佐藤眞一, 中村正和: 大阪府における食育推進プロジェクト第 8 報「元気っ子クラブ」の授業への活用. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 11) 山根美佐枝, 仲下祐美子, 増居志津子, 山本雅代, 亀井和代, 堀井裕子, 伯井朋子, 秦野昌美, 永野明美, 黒川通典, 今野弘規, 木山昌彦, 岡田武夫, 北村明彦, 佐藤眞一, 中村正和, 嶋本 喬: 職場における健診の場を活用した健康づくり支援の効果 (第 1 報) - プログラムの開発. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 12) 増居志津子, 仲下祐美子, 山根美佐枝, 堀井裕子, 山本雅代, 亀井和代, 伯井朋子, 秦野昌美, 永野明美, 黒川通典, 今野弘規, 木山昌彦, 岡田武夫, 北村明彦, 佐藤眞一, 中村正和, 嶋本 喬: 職場における健診の場を活用した健康づくり支援の効果 (第 2 報) - プロセス評価. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 13) 仲下祐美子, 増居志津子, 山本雅代, 亀井和代, 堀井裕子, 伯井朋子, 秦野昌美, 黒川通典, 今野弘規, 岡田武夫, 木山昌彦, 北村明彦, 佐藤眞一, 中村正和, 永野明美, 山根美佐枝, 嶋本 喬: 職場における健診の場を活用した健康づくり支援の効果 (第 3 報) - 1 年後の評価. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
 - 14) 永野明美, 秦野昌美, 伯井朋子, 黒川通典, 堀井裕子, 亀井和代, 山本雅代, 仲下祐美子, 増居志津子, 木山昌彦, 今野弘規, 岡田武夫, 北村明彦, 佐藤眞一, 中村正和, 嶋本 喬: 健診時の生活習慣改善指導の効果 (第 1 報) - 生活習慣の 1 年間の変化 -. 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 9 月, 札幌.
- 【分担研究者: 山口幸生】
- 1) Y. Yamaguchi, S. Miura, H. Urata, K. Yamatsu, S. Nishida, K. Saku, The effectiveness of a Multicomponent Program for Nutrition and Physical Activity Change in Japanese Clinical Setting: Follow-up intervention effects of PACE+ Japan, Eighth International Conference of Behavioral Medicine, August, 2004, Germany.
 - 2) 山口幸生, 三浦伸一郎, 浦田秀則, 朔啓二郎, 山津幸司, 西田哲, 生活習慣病患者に対するコンピューターを活用した生活改善プログラムの有効性 - 6 ヶ月のフォローアップカウンセリングの有効性 -, 第 7 回運動疫学研究会, 2004 年 9 月, 東京.
 - 3) 山口幸生, 甲斐裕子, 川原彰子, 熊本弘子, 食と運動の習慣改善を支援するヘルスポランティア養成プログラムの評価, 第 63 回日本公衆衛生学会総会, 2004 年 10 月, 島根.
 - 4) 甲斐裕子, 山口幸生, 徳島了, 中根明美, 中田三千代, 岩藤尚美, 南智恵, 徳山浩子, 瀬古由美子, IT を用いた食と運動の習慣改

- 善をめざした指導者支援システムの評価,
第 63 回日本公衆衛生学会総会, 2004 年 10
月, 島根.
- 5) 山口幸生, 地域における IT と郵便を用いた通信型生活習慣改善プログラム, 2005 年福岡大学特別講座, 2005 年 5 月, 福岡.
 - 6) Yukio Yamaguchi, A non face-to-face program using mail to encourage nutritional and physical activity changes in the community: Development of internet support system for a counselor, International Symposium 2005 on Health Benefit of Physical Activity and Health Service in Community and Workplace, July, 2005, Tokyo.
 - 7) 山口幸生, 甲斐裕子, 地域における IT や郵便等を活用した生活習慣改善プログラムの提案—通信教育で新しい住民層を取り込んで, 行動変容を促せるか?—, 第 14 回日本健康教育学会, 2005 年 8 月, 福岡.
 - 8) 甲斐裕子, 山口幸生, 地域における IT や郵便等を用いた健康教育に関する保健師の意識, 第 14 回日本健康教育学会, 2005 年 8 月, 福岡.
 - 9) 山口幸生, 甲斐裕子, 市町村保健師のコンピューター利用に関する基礎的情報リテラシー尺度の開発, 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 10 月, 北海道.
 - 10) 甲斐裕子, 山口幸生, 全国自治体における IT を活用した健康教育の実態と保健師の意識—事業導入の必要性と可能性を高めるには?—, 第 64 回日本公衆衛生学会, 2005 年 10 月, 北海道.
 - 11) 山口幸生, 自治体における ICT を活用した健康教育の現状と課題, 第 64 回日本公衆衛生学会自由集会, 2005 年 10 月, 北海道.
 - 12) 千葉寛子, 白石温子, 山口幸生, 女子大学生に対する携帯電話を利用したウエイトコントロールプログラムの開発と評価, 第 19 回九州スポーツ心理学会, 2006 年 3 月, 福岡.
 - 13) 山口幸生, インフォメーション・テクノロジーにささえられた行動医学的支援, 第 12 回日本行動医学会研修会, 2006 年 3 月, 東京.
- 【分担研究者: 足達淑子】
- 1) 足達淑子, 山津幸司. コンピュータを用いた行動療法による高血圧予防プログラム (第 2 報): 9 ヶ月後の長期効果. 産業衛生学雑誌, 2004, 46, 355p.
 - 2) 山津幸司, 足達淑子. コンピュータによる減量支援プログラムを用いた無作為介入試験. 産業衛生学雑誌, 2004, 46, 357p.
 - 3) 国柄后子, 足達淑子, 山津幸司. 簡便な生活習慣改善プログラムの減量効果: 1 年後の長期効果. 産業衛生学雑誌, 2004, 46, 356p.
 - 4) 高尾総司, 川上憲人, 山津幸司, 足達淑子. 職場における適正飲酒の行動介入プログラム: 試行結果の報告. 産業衛生学雑誌, 2004, 46, 428p.
 - 5) 足達淑子, 羽山順子, 山津幸司, 国柄后子, 山上敏子. 医学生に対する睡眠の行動医学教育とその効果の検討. 日本睡眠学会第 29 回定期学術集会プログラム・抄録集, 2004, p238.
 - 6) 山津幸司, 足達淑子, 国柄后子, 羽山順子, 山上敏子. 睡眠習慣介入におけるセルフモニタリングの特異的効果の検討 (第二報). 日本睡眠学会第 29 回定期学術集会プログラム・抄録集, 2004, p236.
 - 7) 国柄后子, 足達淑子, 羽山順子, 山津幸司, 山上敏子. 就眠困難者に対する短期行動療法の長期効果の検討. 日本睡眠学会第 29 回定期学術集会プログラム・抄録集, 2004, p237.
 - 8) 羽山順子, 足達淑子, 山上敏子, 山津幸司, 西野紀子. 睡眠改善セミナー参加者の睡眠、習慣といわゆる不適応的認知の特徴. 日本睡眠学会第 29 回定期学術集会プログラ

- ム・抄録集, 2004, p240.
- 9) Yoshiko Adachi, Koji Yamatsu, Kyo Adachi, Toshiko Yamagami. Long-term effects of a structured computer-tailored behavior change program for weight control, World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004, 2004; 250p..
 - 10) Koji Yamatsu, Yoshiko Adachi, Kyo Adachi, Toshiko Yamagami. Long-term effects of a structured computer-tailored behavior change program for BP control, World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004 Abstracts, 2004; 212p.
 - 11) Junko Hayama, Yoshiko Adachi, Toshiko Yamagami, Koji Yamatsu, Noriko Nishino, Kyo Adachi. Sleep, Habits, and cognitions in poor sleepers in community, World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004, 2004; 274p.
 - 12) 足達淑子, 山津幸司. コンピュータによる減量支援プログラムを用いた無作為介入試験: 7 ヶ月後の結果について. 肥満研究 (第 25 回日本肥満学会プログラム・抄録集), 2004, 10, p218.
 - 13) 山津幸司, 足達淑子. コンピュータによる個別減量プログラムの介入終了後の体重変化とその予測因子. 肥満研究 (第 25 回日本肥満学会プログラム・抄録集), 2004, 10, p218.
 - 14) 国柄后子, 足達淑子, 山津幸司. 行動療法を用いた通信制習慣改善プログラムの減量効果: セルフモニタリングの長期効果. 肥満研究 (第 25 回日本肥満学会プログラム・抄録集), 2004, 10, p220.
 - 15) 足達淑子. 情報技術を活用した健康支援. 健康支援, 2005, 7(1), p64.
 - 16) 伊藤桜子, 足達淑子, 山津幸司, 津田彰. 減量希望者の生活習慣と自己効力感に関する性・年齢別検討: 非対面プログラム参加者の分析より. 健康支援, 2005, 7(1), p88.
 - 17) 足達淑子, 山津幸司. 個別助言をコンピュータ化した非対面の高血圧予防プログラム (第 3 報): 終了群と 1 回群の 10 ヶ月後の検診血圧値と習慣の変化. 産業衛生学雑誌, 2005; 47: 506. (第 78 回日本産業衛生学会, 東京, 4 月)
 - 18) 山津幸司, 足達淑子. 個別助言をコンピュータ化した非対面の禁煙プログラム. 産業衛生学雑誌, 2005; 47: 819. (第 78 回日本産業衛生学会, 東京, 4 月)
 - 19) 高尾総司, 三橋利晴, 川上憲人, 山津幸司, 足達淑子. 職場における適正飲酒の行動介入プログラムの開発と評価: 無作為化介入試験の途中経過. 産業衛生学雑誌, 2005; 47: 810. (第 78 回日本産業衛生学会, 東京, 4 月)
 - 20) 国柄后子, 足達淑子, 山津幸司, 高尾総司, 川上憲人. 飲酒習慣に対する簡便な生活習慣改善プログラムの 1 ヶ月後の効果の検討. 日本公衆衛生雑誌, 2005; 52(8): 322. (第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌, 8 月)
 - 21) 足達淑子, 山津幸司, 山上敏子. 減量希望者の心理行動特性: 非対面プログラム利用者 10145 名の性、年別特徴. 日本公衆衛生雑誌, 2005; 52(8): 630. (第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌, 8 月)
 - 22) 山津幸司, 足達淑子, 山上敏子. 高血圧患者の血圧管理行動と生活習慣. 日本公衆衛生雑誌, 2005; 52(8): 600. (第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌, 8 月)
 - 23) 足達淑子, 山津幸司. コンピュータによる減量支援プログラムを用いた無作為介入試験: 1 年後の追跡結果. 肥満研究 (第 26 回日本肥満学会プログラム・抄録集), 2005; 11(Supplement): 130. (第 26 回日本肥満学会, 札幌, 10 月)
 - 24) 山津幸司, 足達淑子. 非対面減量プログラムに参加した肥満者の心理行動特性と性差の検討. 肥満研究 (第 26 回日本肥満学

会プログラム・抄録集), 2005; 11(Supplement): 229. (第26回日本肥満学会, 札幌, 10月)

- 25) 伊藤桜子, 足達淑子, 津田彰. 非対面減量プログラムに参加した肥満者の習慣改善への意向と目標設定. 健康支援, 2006; 8(1): 66. (第7回日本健康支援学会, 福岡, 2月)
- 26) 足達淑子 田中みのり 伊藤桜子 山津幸司. 地域保健活動におけるITを活用した生活習慣改善法の検討—12市町村を対象とした減量支援法の比較介入試験—. 第12回日本行動医学会学術総会, 東京, 3月)

【分担研究者: 嶋田洋徳】

- 1) Ono Kumiko, Igarashi Yuri, Takahashi Fumito, Kaneko Kumi, Akamatsu Aki, Ueda Kenta, & Shimada Hironori 2004 The influence of the subjective satisfaction about stress coping on stress responses (1), *2nd Asian Congress of Health Psychology*, Korea.
- 2) Ueda Kenta, Akamatsu Aki, Kaneko Kumi, Takahashi Fumito, Igarashi Yuri, Ono Kumiko, & Shimada Hironori, 2004 The influence of the subjective satisfaction about stress coping on stress responses (2), *2nd Asian Congress of Health Psychology*, Korea.
- 3) Kaneko, Kumi., Ueda, Kenta., Takizawa, Mizue., & Shimada, Hironori. Effects of the differences in interpersonal stressful events on the selection of coping strategies. 2004 *Communication presented at World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies*, Kobe.
- 4) 川瀬英理, 小野久美子, 嶋田洋徳 2004 ストレスコーピングのための指導者教育養成法の確立に関する研究—指導用解説書の作成とその検討— 日本スト

レスマネジメント学会第3回大会

- 5) 金子久美・赤松亜紀・高橋史・五十嵐友里・植田健太・小野久美子・嶋田洋徳 2004 ストレスコーピングに対する主観的満足度がストレス反応に及ぼす影響(その1), 日本ストレスマネジメント学会第3回大会
- 6) 小野久美子・植田健太・赤松亜紀・五十嵐友里・金子久美・高橋史・嶋田洋徳 2004 ストレスコーピングに対する主観的満足度がストレス反応に及ぼす影響(その2), 日本ストレスマネジメント学会第3回大会
- 7) 植田健太・小野久美子・赤松亜紀・五十嵐友里・金子久美・高橋史・嶋田洋徳 2004 ストレスコーピングに対する主観的満足度がストレス反応に及ぼす影響(その3), 日本ストレスマネジメント学会第3回大会
- 8) 小野久美子・金子久美・五十嵐友里・高橋史・赤松亜紀・植田健太・嶋田洋徳・平木典子・飯森洋史・松野俊夫・村上正人 2004 コーピング選択に対する主観的満足度が心理的ストレス反応に及ぼす影響, 日本行動医学会第10回大会
- 9) 金子久美, 嶋田洋徳, 内山喜久雄 気分変調性障害への自律訓練法とREBT法との併用の効果. 日本自律訓練学会第28回大会抄録集, 69, 2005.
- 10) 加計佳代子, 嶋田洋徳 児童の社会的スキルと認知の誤りが社会不安へ及ぼす影響 日本行動療法学会第31回大会発表論文集, 404, 2005.
- 11) 野崎健太郎, 高橋史, 五十嵐友里, 嶋田洋徳 社会不安傾向者の記憶バイアスに関する検討. 日本行動療法学会第31回大会発表論文集, 396, 2005.
- 12) 金子久美, 西川公平, 嶋田洋徳 職場が提供する精神保健サービスを利用することに対する従業員のコスト-ベネフィットの検討. 日本行動療法学会第31回大会発

表論文集, 366-367, 2005.

- 13) 長尾賢治, 金子久美, 五十嵐友里, 嶋田洋徳 ストレス事態における原因帰属がコーピングの柔軟性に及ぼす影響. 日本行動療法学会第 31 回大会発表論文集, 336-337, 2005.
- 14) 笹川智子, 高橋史, 赤松亜紀, 佐藤寛, 嶋田洋徳, 野村忍 児童期の社会不安と不安場面に対する認知. 日本行動療法学会第 31 回大会発表論文集, 274-275, 2005.
- 15) 後藤愛, 高橋史, 赤松亜紀, 佐藤寛, 長尾賢治, 嶋田洋徳, 竹中晃二 児童における身体活動の行動変容ステージと抑うつ, 社会的スキルとの関係. 日本健康心理学会第 18 回大会発表論文集, 143, 2005.
- 16) 小野久美子, 平木典子, 嶋田洋徳, 松野俊夫, 村上正人 アサーション行動が摂食障害傾向に及ぼす影響: 女子高校生と女子大学生の比較検討. 日本心身医学会第 46 回学術総会, 128, 2005.
- 17) 小野久美子, 金子久美, 五十嵐友里, 高橋史, 赤松亜紀, 植田健太, 嶋田洋徳, 平木典子, 飯森洋史, 松野俊夫, 村上正人 コーピング選択に対する主観的満足度が心理的ストレス反応に及ぼす影響. 日本行動医学会第 11 回学術総会抄録集, 49, 2005.

【分担研究者: 大野ゆう子】

- 1) 萩本明子, 大野ゆう子, 馬醫世志子, 増居志津子, 中村正和 禁煙指導技術による禁煙効果の分析 第 13 回日本健康教育学会講演集 2004 年 12 巻 Supplement 108-109 頁
- 2) 馬醫世志子, 大野ゆう子, 萩本明子, 増居志津子, 中村正和 指導技術面からみた禁煙指導者トレーニングプログラムの評価 第 63 回日本公衆衛生学会総会 2004 年 10 月 松江市
- 3) 中村正和, 増居志津子, 萩本明子, 馬醫世志子, 大野ゆう子 禁煙指導者トレーニングの効果に関する研究の総括-ワークシ

ョップ方式の効果 第 63 回日本公衆衛生学会総会 2004 年 10 月 松江市

- 4) Ito Y, Ohno Y, Kasahara S, Saika K, Ura R, Tanaka H, Tsukuma H, Oshima A. THE EVALUATION OF THE IMPROVEMENT FOR CANCER SURVIVAL, USING THE METHOD OF AGE AND STAGE ADJUSTED SURVIVAL RATE, OSAKA IN JAPAN. 27th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, September. 2005, Entebbe, Uganda
- 5) Ura R, Ohno Y, Saika K, Ito Y, Tsukuma H, Oshima A. THE STUDY ON THE METHODOLOGY FOR THE ESTIMATION OF 5-YEAR CANCER PREVALENCE IN OSAKA, JAPAN. 27th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, September. 2005, Entebbe, Uganda
- 6) Koshino Y, Ohno Y, Saika K, Ito Y, Ura R, Fujita M, Su Y. THE CHANGE OF THE CURE AND THE MEAN SURVIVAL TIME OF CANCER PATIENTS IN HUKUI, JAPAN. 27th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, September. 2005, Entebbe, Uganda
- 7) 竹村明子, 大野ゆう子, 雑賀公美子, 伊藤ゆり, 笠原聡子 禁煙による疾病リスクの低下に伴う医療費の変化~受動喫煙による医療費を考慮して 第 64 回日本公衆衛生学会総会. 2005 年 9 月、札幌市
- 8) 浦梨枝子, 大野ゆう子, 雑賀公美子, 伊藤ゆり, 大島明 大阪府がん登録データを用いた 5 年有病者数推計方法の検討 第 64 回日本公衆衛生学会総会. 2005 年 9 月、札幌市

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

この研究において、知的財産権に該当するものはなかった。